

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	(有)鹿屋介護サービスセンター
(ユニット名)	グループホームゆうきの里
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県 鹿屋市
記入者名 (管理者)	今府 ミチ子
記入日	平成 21 年 12 月 2日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として地域の方々との交流を図り、地域に愛され貢献できる施設になるよう、等の事を理念に詠い努力を重ねている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝朝礼時に、出勤者全員で理念を唱和、理念の共有、実践に向け日々取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は施設入り口横に掲示し、家族の面会時や、地域の方々にも見ていただき、理解してもらえようようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの団地住民や近所のグループホームとの交流はイベント開催や施設の見学等を行いながら、気兼ねな付き合いを行なっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会や保育園との交流もあり、除草作業や、地域のお祭り、運動会、棒踊り等、施設に来ていただいたり招待していただく等、地元との交流を深めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>地域住民の方々とは馴染みの関係であり、職員、利用者が一体となり地元の活動や交流にも積極的に参加しており、今後も地域の高齢者の暮らしに役立てるように取り組んでいきたい</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>評価の意義は職員全員が理解しており、評価に向けた取り組みを行なっている（外部研修、内部研修、勉強会など）</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>推進会議には地元の民生委員や、包括職員、家族代表の方々に参加して頂き、施設のサービス状況や外部評価の報告、また施設での困り事等を相談し意見をいただきながら、サービスにつなげている。</p>		
9	<p>○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>グループホーム協議会での勉強会や催し物等、市町村担当者も参加されており、特に行き来する機会はないが行政に関する困りごとなどあった場合は、いつでも相談できる体制にはなっている。</p>	○印 (取組んで いきたい項目)	定期的に市町村担当者と行き来する機会を持ちたい
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>管理者、職員はまだ地域権利擁護事業や、青年後見制度について深く理解していない。</p>	○印 (取組んで いきたい項目)	管理者、職員は権利擁護についての知識が浅い為、これからは、地域権利擁護事業や、成年後見制度についての知識と理解を深め、必要時は関係者と相談しながら活用できるよう支援していきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>管理者や職員は高齢者虐待防止の研修や勉強会に参加。事業者や家族間の利用者への虐待を見逃す事のないよう、日々努力を重ねている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や契約解除の際は、利用者や家族等に不安や疑問などがある場合は、十分な働きかけや、説明を行い納得いただけるよう努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満、苦情等はその時々々の事例により、ホーム内で解決出来る事また出来ない時には推進会議メンバーや、包括支援センター職員等に相談しながら運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしや健康状態など、部屋担当者や管理者が月1回手紙や、面会時などに近況報告。また金銭管理は家族の面会時に、毎月金銭出納帳の確認をして頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、不満、苦情等はホーム内で解決できることは職員会議やミーティングで検討、困難事例があれば推進会議等で検討していただいている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や、朝のミーティング等で、意見や提案を聞くようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員は常勤7名非常勤2名で対応しており、その時の状況の変化や要望に対し、十分に職員は対応できている（ボランティアも含め）	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各部屋の担当者が決まり、職員は固定化されている。いつも顔馴染みのケアがなされており、又この2年間職員の離職も1名しかなく（1名補充）離職後もボランティア活動等行っており、利用者へのダメージを防ぐ努力をしている。	
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各人が毎月研修に参加する機会を持ち、介護力アップに取り組んでいる。現在毎月2名以上研修に参加している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会や施設見学、イベント等にも積極的に参加し交流を図っている。（又参加日においても出勤扱いとしている為、参加しやすい状況となっている）	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の休みを月9回とし、できるだけ職員の希望を取り入れた勤務を組んでいる。又職員向けのストレスの研修会や職員同士での食事会をする等してストレスの軽減に努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心を持ってもらうために、各月の講習会などに参加してしてもらい、外からの刺激による職員個々のモチベーションが上がるようにしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人とゆっくり話す機会を持ち、会話の中で本人の気持ちを把握し本人が納得出来、受け止めてもらえるように努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の面会時には話をする機会を持ち、必要時には電話などにて家族の困りごとや求めていること等を把握し、受け止めているようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望があれば検討、双方が納得、必要に応じてサービスの利用を考え、取り入れるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりのサービス開始ではなく、施設の見学や体験入所等行なっただき、施設の雰囲気に馴染んでもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と本人は対等な立場にあり、日々の生活の中で共に過ごし支えあいながら、信頼関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会、行事の催し物等で家族が来所された際、職員は家族の方々と話し合いの場を持ち、双方に良い関係作りが出来るように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族が面会に来所された際には、利用者との一緒にの外出や外泊等お願いし、これまでの関係が維持できるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への一時帰宅や、友人宅への訪問、ご先祖の墓参り等行い馴染みの友人宅や場所に職員も同行し、人間関係や社会とのつながりが、途切れないようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合った入居者同士での外食や、グループでの買物や催し物への参加。又自分で出来ない入居者には、出来る入居者が手をさしのべる等の行為が見られ、利用者同士もお互いを支えあっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後にも施設や病院を訪れたり、電話等でも状況を聞くなどして、利用者や家族との関係が途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意見や希望を聞きながら、日々の関わりの中でも、気付いたことがあればその都度、本人や家族の意向に沿えるような努力をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人のこれまでの生活歴や、生活環境を把握し、サービスの利用に生かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人一人の状態を把握しその人らしい、日々の過ごし方が出来るように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族そして必要な関係者との日々の関わりの中で意見や要望を聞きながらケース会議やミーティング等で検討しながら介護計画を立てている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しを行なっているが、利用者の状況に変化が生じた場合、本人や家族と話し合い、随時計画の見直しを行なっている。	○ 今後も研修会等に参加しながら、よりよい支援が出来るよう努めたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作成し、日々の暮らしやケアの実際を記録し情報の共有している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は多機能性を重視してはいるが、固定化している部分も多い。	○ 本人や家族の要望に合わせた、型にはまらない施設独自の支援が出来る努力をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	これまで本人や家族の意向はないが、地域の民生委員や消防、警察、近隣住民との連携は取れている。	○ 今後は、本人や家族の意向や必要性があれば、運営推進会議や地域との連携を図りながら支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要に応じ、他施設や病院等の相談員やケアマネとの連携を図りながら、他のサービスも利用している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	<p>○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	○	今後も地域包括センターとの連携を図りながら権利擁護や長期的なケアマネジメントについて、協働していきたい。
43	<p>○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	重度化した場合や終末期の対応として本人や家族がそれを望むのであれば、出来るだけ早い段階から、関係者との話し合いを重ね、全員がそれに向けた支援が出来るようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合や終末期の対応は、家族が病院での治療を望んでいる場合が殆どである為、重度化した利用者は、かかりつけ医や家族、事業所との話し合いで入院となるケースが多い。	○	今後は事業所の方針としてターミナルケアを含めた検討や準備が進めていけたらと思っている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移住前に本人が十分納得できるよう、移住先の説明や見学等行う。また家族や転居先のケアに関わる関係者との情報交換を行いダメージを防ぐように心がけている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の漏洩は勿論のこと、利用者への言葉かけや対応等にも注意をはらい、個人の尊厳や誇りを尊重するよう努力している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が自分の思いを自己表現できるよう、蜜に声かけや傾聴に努め、利用者が自分で納得できる暮らしが出来るよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の考えにあわせ、意見や希望を聞きながら出来るだけその人の希望に合った支援をするようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自宅にいた時からの行きつけの美容院や、理容所を利用したり、行きつけのない利用者は希望時にボランティアとして半年に2~3回程度施設に来ていただいている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや、調理の下ごしらえ、テーブルの片付け等自分の役割として楽しみながら手伝われている。又食事中も入居者や職員との会話が弾み、良い雰囲気作りが出来る。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	パン、菓子、焼酎等一人一人の体調や好みに合わせ提供し、日常的に楽しむことが出来るようになっている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握しオムツ⇒リハビリパンツ⇒布パンツへの切り替え等を行い気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調にあわせ、なるべく本人が望む形での入浴が出来るように支援している。又入浴日は決められてはいるが本人が望めばいつでもシャワー浴や入浴が出来るようになっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣のパターンが出来上がっており、それぞれがマイペースで、安眠、休息を楽しまれている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗いや、洗濯物をたたんだり、ミニ菜園に野菜を植え収穫したりとその人の持てる力を活かし支援している。また気の合った仲間との外食やドライブ買物等の外出にて気分転換を図っている。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる入所者には、小使い銭として現金を所持していただいている。又本人の希望で必要な物は、値段等の情報を提供し、購入しやすいように支援している。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の目を外に向けるような会話をし、散歩やドライブ等外出に対する意欲を高めている。又庭園での食事や外食、近隣での行事や催し物にも積極的に参加している。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	墓参り、自宅の片付け、外泊等家族の協力のもと、普段は行けない場所にも出掛けられるよう、支援している。	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの要請があれば、いつでも電話や手紙の代筆も行なうようにしている。	○ インターネットできる環境があれば、行事や普段の生活ぶりを写した写真等も受け取れるような体制作りを行ないたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関周りには草花を植え、家族や友人がいつでも気軽に立ち寄れるような、又訪問時には各居室や談話室でゆっくりお茶等が、飲めるように支援している。	
(4)安心と安全を支える支援			


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>どうしても必要と思われた場合には「緊急やむを得ない場合の対応」マニュアルに従い行なうこととしている。</p>
66	<p>○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	<p>転倒や、不明者等には十分に気をつけているが、特に夜間帯での見回り時に起こる転倒等も時としてあるので、今後も安全には、一層の配慮をしながらサービスを行なっていきたい。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより 地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等 に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応 策を話し合っている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、 気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結 び付けている	毎朝のバイタル測定と、その人の顔色の変化、排 便状況、食欲等日常生活の中での変化や様子を観 察し、体調変化や異常の早期発見に努め、情報を 共有しながら、必要時には受診等の対応をしてい る。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や 副作用、用法や用量について理解しており、服薬 の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師はある程度薬の目的や副作用等、理解して いるが、介護職員は看護師に頼っている部分もあ る。薬は1回分ずつ名前と日付、分包がされており その都度確認し手渡している。	○ 今後は全員が薬の目的や副作用等理解で きるようになり(勉強会などを通じて)服 薬の支援をしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予 防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働 きかけ等に取り組んでいる	便秘症の入居者は牛乳やイモ類、繊維質の多い野 菜や果物等の摂取、又腹部マッサージ等も取り入 れている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしてい る	毎食後の口腔ケアの声掛けや、自分でケ着ない 入居者は職員が介助を行っている。	○ 声掛けに理解できない入居者もあり(抵抗 がある)問題もあるがその人に応じた口 腔ケアが出来るように、皆で努力をし ていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量をチェック。好 き嫌い等も考慮、又粥や刻み、ミキサー食とそれ ぞれに合わせ対応している。	○ 献立内容が栄養士の作った物でない為栄 養のバランスが取れていない可能性もあ り、今後は栄養士との連携も図ってい きたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、 実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、M R S A、ノロウイルス等)	予防接種やうがい、手洗いの徹底、又食中毒に関 してはマニュアルを作成し、勉強会などで伝達し ている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台 所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な 食材の使用と管理に努めている	食材購入後はすぐに冷蔵庫に保存。まな板包丁等 は殺菌消毒、又、まな板は肉、魚、野菜用に区別 し使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやす く、安心して出入りができるように、玄関や建物 周囲の工夫をしている	建物の周りには草花を植え、家庭的な雰囲気醸 し出せるように配慮、誰でもが、気軽に立ち寄れ るような雰囲気作りに心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、 浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や 光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入 れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は田園地帯にありホールからは田植えや稲刈 り等の風景が一望出来、季節感が味わえる。又広 いホールではそれぞれが自由にくつろげる場所にな っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合っ た利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所 の工夫をしている	日中は入居者の殆どがホールでレクや体操等して 過ごされることが多いが、冬場になると談話室で 炬燵を囲んでお茶を飲んだり、日当たりの良い廊 下や居室で、日光浴を楽しんだり、それぞれが 思い思いに過ごされている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相 談しながら、使い慣れたものや好みものを活か して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をし ている	居室は家族に協力して貰い、自宅で使っていたタ ンスの使用や、趣味のグランドゴルフの道具等身 近に置き、居心地よく過ごせるようになっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気 に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよ う配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っ ている	入居者が居室にいない時間帯には、窓を開放し換 気を行ない、四季を通じて外気との温度差がない よう配慮している。トイレの臭いや、気になる所 にはコーヒーの残りかすや芳香剤等で対応してい る。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動時には、車椅子や歩行者がぶつからないようにスペースを広く取ったり、廊下の手すり等を使って歩行練習や立ち座りなどの練習ができるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食器洗いや掃除、洗濯物たたみ等、失敗や混乱をしながらも、その人にあったやり方で（職員と一緒にしないながら）入居者が出来るだけ自立して暮らせるような工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭先には小さな畑や花壇を作り、季節の花々や野菜を作り、ホールに飾ったり、収穫等楽しみながら活動できるようになっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項目		回答	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①

項目		回答	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、生き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない	②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①職員同士が和気藹々として働いており、日々の実践の中でもその事はサービスの中にも生かされていると思っている。
 ②職員9名中 4名の看護師、3名の介護福祉士、2名の2級ヘルパー働いている。(内7名が常勤であり2名が非常勤となっている)
 ③協力医療機関を近くに確保しており緊急時にも即対応可能となっている。